日本パブリックリレーションズ協会　会員誌

PRSJ NEWS

2025 年 2 月号　No.370

「PR 大賞表彰式の様子」 P17 掲載

TOPICS

BULLETIN

「ＰＲアワードグランプリ 2024」審査団による講評・コメント　P10
2025 新春ＰＲフォーラムを開催報告　P15

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会
発行人：理事長　山口 恭正

目　次

２月~3 月スケジュール		P1
MESSAGE(メッセージ)	※都合により今月の理事・監事メッセージはお休みとなります	
ATTENTION(お知らせ)	「ひとり広報支援プログラム」オンデマンド講座販売開始	P3
〃	「ＰＲアワードグランプリ受賞事例公開セミナー」開催	P5
〃	「今日から使える！！生成 AI の広報活用ワークショップ」開催	P7
〃	「ＰＲプランナー・創発ワークショップ 2025」開催	P9
BULLETIN(活動報告)	「ＰＲアワードグランプリ 2024」審査団による講評・コメント	P10
	2025 新春ＰＲフォーラムを開催報告	P15
〃	ディアリレーションズ実践講座 2024 (12 月 24 日)開催報告レポート	P18
PRSJ in MEDIA	協会掲載記事	P19
事務局だより		P20

２～３月　セミナー・イベント　スケジュール

【対面】			
2024 年度「PR 業部会総会」	日　時	：	2月27日（木）18：30～
パネルディスカッション	会　場	：	日本記者クラブ 会見場（プレスセンタービル）
10 年後の PR 業～PR ビジネスは生き残れるか	パネリスト	：	(株)電通PRコンサルティング 部長/チーフコンサルタント 石井裕太氏 (株)オズマピーアール 部長/シニアPRプロデューサー 杉山太一氏 (株)サニーサイドアップ 部長 牧野紗英氏
【対面】			
SNS ショート動画活用講座	日　時	：	2月28日（金） 15：00～17：00
	会　場	：	富士ソフトアキバプラザ　6F セミナールーム6
	講　師	：	(株)電通PRコンサルティング 統合コミュニケーション局 デジタルアクティベーション部 部長 / チーフプランナリスト 新井健太氏、(株)電通 PR コンサルティング 統合コミュニケーション局 デジタルアクティベーション部 シニアコンサルタント 山崎珠里氏 (株)BitStar マーケティングソリューション本部 ショート動画局 プロデューサー 葉悠莉氏、(株)エルテス 執行役員 後藤田隼人氏
【オンライン】			
消費者庁ステマ規制に関するセミナー	日　時	：	3月４日（火）16：00～17：30
	会　場	：	Zoomウェビナーによるオンライン配信
	講　師	：	池田・染谷法律事務所 染谷隆明弁護士
【対面】			
ＰＲ業経営者懇談会	日　時	：	3月6日（木）18:00～20:00
	会　場	：	国際文化会館
	講　師	：	トランスコスモス(株) 顧問 福島 常浩氏
【対面】			
企業部会第 32 回広報活動研究会	日　時	：	3月7日（金）15：30～17：30
	会　場	：	「セイコーミュージアム 銀座」見学会
【対面】			
ＰＲアワード受賞事例公開セミナー	日　時	：	3月10日（月）18：30～21：00
	会　場	：	富士ソフト アキバプラザ
【対面】【関西】	日　時	：	3月11日（火）16：00～18：00
第 294 回定例会	会　場	：	ネスレ日本株式会社 神戸本社
	テーマ	：	ネスレのサステナビリティとコミュニケーションの取り組み
	講　師	：	ネスレ日本株式会社 執行役員コーポレートアフェアーズ統括部長 嘉納 未來氏
【対面】	日　時	：	3月12日（水） 13:00～17:00
緊急記者会見トレーニング	会　場	：	富士ソフトアキバプラザ セミナールーム2
	講　師	：	西村あさひ法律事務所・外国法共同事業 パートナー弁護 の鈴木悠介氏

２月～３月の理事会・委員会・部会スケジュール

◇定例理事会	（2 月度）	日 時	：	2 月 13 日（木）	16：00～17：30
		会 場	：	事務局＋オンライン開催	
	（3月度）	日 時	：	3月 13 日（木）	16：00～17：30
		会 場	：	事務局＋オンライン開催	
◇教育委員会	（2月度）	日 時		2 月 20 日（木）	16：00～17：00
		会 場		事務局＋オンライン開催	
◇資格委員会	（2月度）	日 時	：	2 月 27 日（火）	14：00～15：00
		会 場	：	事務局＋オンライン開催	
◇国際・交流委員会	（2月度）	日 時	：	2月7日（金）	15：30～16：30
		会 場	：	事務局＋オンライン開催	
◇広報委員会	（2 月度）	日 時	：	2 月 27 日（月）	16：00～17：00
		会 場	：	事務局＋オンライン開催	
◇顕彰委員会	（2月度）	日 時	：	2月 1 9 日（水）	17：00～18：00
		会 場	：	事務局＋オンライン開催	
◇企業部会幹事会	（2月度）	日 時	：	2月5日（水）	17：00～18：00
		会 場	：	事務局＋オンライン開催	
◇PR 業部会幹事会	（2月度）	日 時	：	2月 18 日（火）	16：00～17：00
		会 場	：	事務局＋オンライン開催	

特別企画！『ひとり広報担当者』に向けて
人気のオンデマンド講座をパッケージ化！！
「ひとり広報支援プログラム」
オンデマンド講座販売開始のご案内

教育委員会

教育委員会は、2 月 17 日（月）に「ひとり広報支援プログラム」をオンデマンド講座としての販売開始いたしました。

最近耳にすることが増えた “ひとり広報”担当者。文字通り企業・団体においてお一人で広報業務を担われる方々のことで、スタートアップや BtoB の企業などに多い傾向にあります。広報の仕事は社内外に向けて多岐にわたるため、ひとりで担う業務には非常に多くの要素があり、時には方向性が見えにくくなるという声を協会にいただくことがあります。
そこで新春特別企画として「ひとり広報支援プログラム」をご提供いたします。

本プログラムは PRSJ が今までオンデマンドや対面で実施した講座の中からひとり広報担当者の皆様にフィットする 4 つの講座をオンデマンド講座としてパッケージ化しました。ひとり広報ご担当者様にぜひ押さえていただきたいポイントを網羅しています。
また、期間限定で、通常の当協会の講座よりお求めやすい価格でご提供することといたしました。

講座内容は下記になります。

① 第 49 回スキル研究会（2023 年 5 月 16 日開催）
講師：奥村高大氏（株式会社エルテス　マーケティング・広報 責任者）
内容：本講座では 2022 年の SNS 炎上トレンドを振り返り、実際のケーススタディを通じて SNS 炎上時に注意すべきポイントや緊急対応の方法を解説。

② 消費者庁ステマ規制に関するセミナー（2024 年 4 月 19 日開催）
講師：染谷隆明氏（池田・染谷法律事務所）
内容：本講座では、消費者庁表示対策課での勤務経験がある講師より、
2023 年 10 月 1 日に消費者庁が制定した「景品表示法違反」導入の背景や最新動向を交えた具体的な相談事例などをもとに「現場で役に立つ消費者庁ステマ規制に関するナレッジ」について解説。

③ ＰＲパーソンが知っておくべき法的ポイント（2024 年 4 月 22 日開催）
講師：鈴木悠介氏（西村あさひ法律事務所・外国法共同事業　パートナー弁護士）
内容：本講座では、著作権・肖像権・商標法など広報ＰＲに関連する主な法分野と注意すべきポイントを解説。

④ ニュースリリースの作成と活用（2024 年 4 月 23 日開催）
講師：西林祐美氏（株式会社共同通信 PR ワイヤー　営業部　営業企画課 次長）
内容：本講座では、PESO モデルを基点としたニュースリリースの役割や活用方法、実際に作成する際のポイントを解説。

本講座は、ひとり広報の皆様にとって必須のノウハウを網羅し、広報活動を大きくサポートする内容となっていますので、ぜひお申込みください。

【「ひとり広報支援プログラム」概要】

価格　　：15,000 円（税込）
申込期限：2025 年 3 月 20 日（木）17：00 まで
視聴期限：お申込日から 30 日間
講座　　：上記記載の 4 講座

お申込みはこちら：https://prsj.or.jp/event/hitorikoho/

グランプリ含む 4 事例を徹底研究！

「ＰＲアワードグランプリ受賞事例公開セミナー」開催のご案内

教育委員会

日本パブリックリレーションズ協会は 3 月 10 日(月)に、「ＰＲアワードグランプリ受賞事例公開セミナー」を対面開催いたします。

毎年、一般企業・団体の広報部門やＰＲ会社が実施するコミュニケーション活動の中から審査を通して日本を代表する優秀な活動を表彰する「ＰＲアワードグランプリ」。2024 年度は全 80 件の応募があり、グランプリ 1 件、ゴールド 1 件、シルバー7 件、ブロンズ 6 件、審査委員特別賞 1 件を選出しました。

本セミナーではその中の 4 件のプロジェクト推進メンバーから実際の現場での経験談・工夫したポイントや、業務遂行中に直面した課題などについて詳しくお話しいただくとともに、率直な質疑応答を加えて、各事例を徹底的に深堀りします。
また、審査委員長である本田哲也氏より各事例の評価ポイント、ＰＲの潮流、これからのＰＲに求められるものや今後の展望などについて総評および解説いただく予定です。

受賞者自身が直接語る“現場のリアルな声”を通じて、広報業務における新たな視点や実践的な知識を得られる貴重な機会となります。ぜひご参加ください。

【「ＰＲアワードグランプリ受賞事例公開セミナー」開催概要】

開催日時：2025 年 3 月 10 日（月）18：30～21：00（18：10 から入室いただけます）

総評・解説　：本田哲也氏（PR アワードグランプリ 2024 審査委員長）
進行　　：佐藤圭一氏（日本パブリックリレーションズ協会　顕彰委員長）

会場　　：富士ソフトアキバプラザ 6 階　セミナールーム 1
https://www.fsi.co.jp/akibaplaza/map.html

プログラム：
18：00　受付
18：30　開会
18：35 「ＰＲアワードグランプリ 2024」受賞エントリー紹介プレゼンテーション（前半）
事例 1　＜シルバー受賞＞
『情熱があれば、だれでも音楽家。「だれでも第九」プロジェクト』
エントリー会社：株式会社電通東日本
事業主体：ヤマハ株式会社

事例 2　＜シルバー受賞＞
『メルカリで出会えるもので作った「ウチの実家」』
エントリー会社：株式会社プラチナム/株式会社 EPOCH/株式会社 thaw/株式会社メディアコンシェルジュ

事業主体　　：株式会社メルカリ

＜20:05　休憩（10 分）＞

20:15 「ＰＲアワードグランプリ 2024」受賞エントリー紹介プレゼンテーション（後半）
事例 3　＜ゴールド受賞＞
『無名だった BtoB のニッチな下請け町工場を、毎月 2000 人以上が殺到する人気企業に変えた“ファンづくり活動”』
エントリー会社・事業主体：株式会社島田電機製作所

事例 4　＜グランプリ受賞＞
『アルバイトの立ちっぱなし問題解決を目指す「座ってイイッス PROJECT」』
エントリー会社：株式会社 マイナビ ／ 株式会社 博報堂 ／ 株式会社 TBWA HAKUHODO
事業主体：株式会社マイナビ

20:45　審査委員長　総評・解説
ＰＲアワードグランプリ 2024 審査委員長：本田哲也氏（株式会社本田事務所）

21:00　閉　会

受講料：	一般	：5,000 円
	ＰＲプランナー資格保有者（准・補含む）（※1）	：4,500 円
	学生	：4,000 円
	協会会員（※2）	：4,000 円

※1「ＰＲプランナー有資格者（准：補）」は、1 次 2 次 3 次試験の合格後、
当協会に認定申請を行っていただき、協会が認定したみなさまです。
試験に合格したのみではＰＲプランナー有資格者（准：補）」とは認定されませんので、
ご注意ください。
※2 日本パブリックリレーションズ協会に正会員としてご入会いただいている
企業・団体にお勤めの方、個人会員・准会員のみなさまが対象となります。

お申込みはこちら：https://prsj.or.jp/event/award-seminar2025/

受講後すぐに使える生成 AI の活用方法をレクチャー！
「今日から使える！！
生成 AI の広報活用ワークショップ」
開催のご案内

教育委員会

教育委員会は、3 月 18 日（火）に「今日から使える！！生成 AI の広報活用ワークショップ」を開催いたします。

生成 AI について、悩みを抱えることはありませんか？
「生成 AI をどう広報業務に活用すればよいのか？」
「実際の業務で役立つ AI ツールや手法を知りたい」…など
そんな悩みや疑問をお持ちの広報担当者の皆様へ、実践的な学びの場をご用意いたしました。

本講座では、広報における生成 AI 活用について最前線で情報発信されている専門家を講師に迎え、生成 AI を広報業務に活用するための知識とスキルを学べる内容を、以下のテーマに沿って具体的にレクチャーいたします。
（※内容は一部変更になることがございます）

○ 広報分野での生成 AI 活用状況（調査結果のご紹介）
○ 各業務のおすすめ AI ツールのご紹介
○ 生成 AI を用いた記事要約・情報収集の実践手法
○ プランニングにおけるプロンプト作成実践
○ 生成 AI を活用したクリエイティブ制作の実践
○ 広報特化型オリジナル GPT（GPTs）の作成

本講座は Chat GPT（有料版）をはじめとした生成 AI ツールを活用し、「今日からすぐに使える」実践的な内容をご提供します。講師陣が解説するだけでなく、実際に手を動かしながら体感いただける内容となっています。
生成 AI を駆使して広報活動をさらに進化させたい方、競合との差別化を図りたい方、ぜひ奮ってご参加ください。

【注意事項】
・本講座は Chat GPT などの生成 AI を使用するため、使用可能な PC をご準備お願いいたします。協会ではＰＣの貸し出しはしておりませんので予めご了承ください。
・講座内では、Chat GPT の有料版「Plus（＄20/月）」を使用いたします。講座を受講される方は、有料版を契約の上、ご参加をお願いいたします。
・会場にて Wi-Fi を準備しておりますが通信速度が不安定になる場合がございます。通信速度が不安な方は、恐れ入りますがポケット Wi-Fi などの通信機器のご準備をお願いいたします。

【「今日から使える！！生成 AI の広報活用ワークショップ」開催概要】

開催日時：2025 年 3 月 18 日（火）13：00～17：00（12：45 から入室いただけます）

登壇者　：野中　透 氏　（プラップノード株式会社　マーケティングディレクター）
　　桃井　克典氏（プラップノード株式会社 マーケティングエキスパート）

会場　　：富士ソフトアキバプラザ 7 階　EX ルーム 1
　　https://www.fsi.co.jp/akibaplaza/map.html

受講料：　一般　：34,500 円
　　ＰＲプランナー資格保有者（准・補含む）（※1）　：30,000 円
　　協会会員（※2）　：23,000 円

※1 ＰＲプランナー有資格者（准：補）」は、1 次 2 次 3 次試験の合格後、
当協会に認定申請を行っていただき、協会が認定したみなさまです。
試験に合格したのみでは
ＰＲプランナー有資格者（准：補）」とは認定されませんので、ご注意ください。
※2　日本パブリックリレーションズ協会に正会員としてご入会いただいている
企業・団体にお勤めの方、個人会員・准会員のみなさまが対象となります。

お申込みはこちら：https://prsj.or.jp/event/aiworkshop2025/

ＰＲプランナー資格認定制度／イベント

「PRプランナー・創発ワークショップ 2025」

3 月 14 日(金)18:00～20:30

◇参加対象は 2022 年 2 月以降認定のPRプランナー◇

教育委員会

昨年の創発ワークショップの様子

ＰＲプランナー資格の新規取得者を対象に、「ＰＲプランナー・創発ワークショップ 2025」～ ＰＲプロフェッショナルのあるべき姿を考え、ＰＲプランナーの交流を広げる１日 ～を３月 14 日（金）に開催いたします。

目指すべきＰＲプロフェッショナル像とＰＲプランナーとしてのキャリア形成について考え、話し合い、また、同じ時期にＰＲプランナーとなった方々との横のつながりをつくる交流の機会にしていただきたく存じます。

内容は３部構成となり、

第１部は、ＰＲプランナーでありＰＲプランナー資格委員会･委員（元 PRSJ 理事･ＰＲプランナー部会長）の、NTT コミュニケーションズ(株)ヒューマンリソース部サステナビリティ推進室 室長の田畑 好崇氏に、これからのＰＲプロフェッショナルに求められるナレッジ、スキル、キャリア等についてお話しいただきます。

第２部では、コア・エリート(株) 代表取締役社長の丸山 寛之氏（ＰＲプランナー）をファシリテーターに、「自らが目指すＰＲプロフェッショナル像」を主テーマとするワークショップを行います。

第３部で、会社や業界の枠を越えた相互の情報交換・親睦を目的に、交流会を行います。

対象の方には、ぜひ参加のご検討いただければ幸いに存じます。

【ＰＲプランナー・創発ワークショップ 2025 実施概要】

日　　時	2025 年 3 月 14 日（金）18:00～20:30（受付開始 17:30）
会　　場 アクセス	コングレスクエア日本橋 2F ホール B 東京メトロ日本橋駅 B9 出口 徒歩 0 分 ※日本橋駅直結
プロ グラム	受付開始（17:30～） 第１部（18:05～18:35）基調講演「ＰＲプロフェッショナルへの期待」 第２部（18:35～19:40）自らが目指す「ＰＲプロフェッショナル像」を考え、共有する創発ワークショップ 第３部（19:45～20:30）交流会
参加対象	2022 年 2 月以降にＰＲプランナー資格取得をされた方
定　　員	**40 名**　※定員になり次第締め切らせていただきます
参 加 費	**5,000 円**（税込）
支払方法	クレジットカードによるお支払いをお願いいたします

※詳細につきましては、下記のＰＲプランナー資格制度 Web サイトでご確認ください。

ＰＲプランナー資格制度 Web サイト：https://pr-shikaku.prsj.or.jp/prpsociety/souhatsu2025

「ＰＲアワードグランプリ 2024」審査団による講評・コメント

顕彰委員会

昨年開催した「ＰＲアワードグランプリ 2024」について、審査委員からの講評・コメントが届きました。ぜひ皆様の今後のＰＲ活動のご参考にしていただければ幸いです。

※所属・役職は 2024 年 7 月 20 時点

審査委員長

本田 哲也

株式会社本田事務所　代表取締役

本年度も、昨年に引き続き、たくさんの質の高いエントリーをいただきました。日本社会におけるパブリックリレーションズへの理解と関心が進み、多様な取り組みが生まれていることの証だと思います。

審査委員長として、今年は、昨年に引き続き以下の３つの審査にあたっての視座を示させていただきました。

１、「パーパス（社会的存在意義）」はあるか？：

社会に向き合った、社会的な意義のある活動になっているか。

２、「自分（たち）らしさ」が感じられるか？：

当該企業/ブランドがその活動をするオーセンティシティ（正当性・真正性）があるか。

３、「巻き込む力」は発揮されたか？：

多様なステークホルダーを巻き込み、共創が起こるような設計がなされ、活動の持続性につながっているか。

昨年に続き、実に「粒ぞろい」だった印象ですが、今年は一次審査の時点から上位入賞エントリーには高い評価が集中していました。見事グランプリに輝いた、株式会社マイナビの「アルバイトの立ちっぱなし問題解決を目指す『座ってイイッス PROJECT』」は、事業主体の社会的な立ち位置をブラさずに社会課題解決に向き合った、まさにパブリックリレーションズの「お手本」のような取り組みでした。そして、今年唯一のゴールド受賞となった、株式会社島田電機製作所の「無名だった BtoB の二ッチな下請け町工場を、毎月 2000 人以上が殺到する人気企業に変えた“ファンづくり活動”」は、日本に数多く存在する、「黒子」のような BtoB 企業が挑戦した「全員広報」の取り組みです。この２エントリーへの高い評価は、審査委員全員の一致を見たものでした。

今年は、パブリックリレーションズとはどうあるべきか？と問いただされるような出来事も起こりました。だからこそ、本当に価値のあるパブリックリレーションズの姿を世に提示する本アワードの責任を踏まえ、審査委員一同は気を引き締めて審査に臨みました。あらためて受賞された企業・組織団体の皆様に敬意を表し、これからも日本のすべてのパブリックリレーションズの取り組みが素晴らしい成果を生むことを願っています。

審査委員

伊東 由理

LINE ヤフー(株)

執行役員 コーポレートコミュニケーション統括本部長

パブリックリレーションズ(Public Relations)とは、組織とその組織を取り巻く人間(個人・集団)との望ましい関係を創り出すための考え方および行動のあり方である―これは、PR 協会のホームページに書かれた PR の定義ですが、今年の受賞案件は、このことを実感させてくれる案件が多かったように思います。そして、その「望ましい関係」は、各社の Purpose に立脚しているのは勿論、目の前で起きているちょっとした「あれ？」や「やっぱりこの方が良いよね」に丁寧に向き合った結果紡がれたものでした。大きな動きや変化が起きる昨今ですが、目の前で起きていることを丁寧に、同時に直視し、「あれ？」を見過ごさない・やり過ごさないことの大事さを改めて、教えていただきました。
受賞された皆さん、おめでとうございました！

北見 幸一

東京都市大学

都市生活学部／大学院環境情報学研究科　准教授

私も所属する日本広報学会では、会員と約 2 年間かけて議論を行い、広報の定義を 2023 年 6 月に公開しました。定義では「広報とは、目的達成や課題解決のために、組織や個人が多様なステークホルダーとの双方向コミュニケーションによって社会的に望ましい関係を構築・維持する経営機能である。」としています。この定義では、広報はパブリックリレーションズ（PR）と同じ意味を持つ概念として捉え、基本的に同じものとして使っています。今年の PR アワードグランプリの数多くの作品を見て、まさにこの定義が具現化されたものが、上位に入賞していると実感いたしました。エントリーした団体の PR 活動は、ステークホルダーと社会的に望ましい関係を構築・維持するのに、どれだけ貢献しようとしているのか、根拠を示したものが分かりやすかったように思います。

小林 正史

株式会社プラップジャパン
戦略企画部 部長／Group Planning Director

PR って本当におもしろい。
同じ想いを抱く皆さんから 2025 年も多数のエントリーが集まると嬉しいな。HOW のテクニックより（それも大事だけど）WHY の鋭さの方が、私含めて審査員一同、大好物です。「そもそも、なぜ今それを PR で社会に問いかける必要があるのか」一般論ではない独自視点からのイシューが設定されている企画を見たり考えたりして、一緒にエクスタシーに浸りましょう。

田上 智子

株式会社シナジア
代表取締役

PR アワードグランプリの審査は、大変楽しみでありつつ、身が引き締まる思いがいたします。私は今回、3 年ぶりに審査会に復帰いたしましたが、前回以上にエントリーの「パブリックリレーションズとは」という視点が研ぎ澄まされていると感じ、日本のパブリック・リレーションズ業界がますます社会で重要な役割を果たしていることをうれしく思いました。24 年 6 月のカンヌライオンズ PR 部門の現地審査時と同様に、コロナ禍後の社会が PR に求めているのはアイデアやクリエイティブ視点と、マルチステークホルダーとの関係作り視点の両立です。今回はグランプリ、ゴールドの二作品を始め、多くのエントリーにそうしたユーモアを含めたクリエイティビティの力で真面目な課題に向き合ったことを感じる作品が多かったように思います。本年、受賞された皆様、改めましておめでとうございます。　惜しくも受賞に至らなかったエントリーの皆様も含め、渾身の思いでエントリーシートをお送りくださった全ての方に感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

竹下 隆一郎

元 PIVOT 株式会社
チーフ・グローバルエディター 執行役員

広報ファーストであるかどうか。私の審査基準です。
商品やサービスを作ったあと、ショートケーキの最後の「いちご」を乗せるような広報ではなく、ケーキをつくる初日からすべての過程に関わっている広報戦略のことです。
商品やサービスを作ろうとする第一回目の会議に、広報担当者が加わることで、日本の企業はもっとよくなると思います。軍事力や経済力ではなく、「言葉の力」が国際政治をも動かす時代。これからも日本の広報が発展することを願っておりますし、私も頑張ります。

河 炅珍

國學院大學　観光まちづくり学部　准教授

受賞された皆様、改めておめでとうございます。審査に参加して 4 年目ですが、今年も PR に対する理解が深まる気づきや発見が多く、私自身も勉強になりました。「PR 会社」が世間の注目を浴びた年でもありましたが、その根底には現場で働く実務家と社会の間で PR をめぐる認識や理解のギャップが存在すると思います。実務家が「良い PR」を実践することはもちろん、何が良い PR なのかを社会に向けて説明する努力が求められる時代になっていると感じました。その意味で、今回の授賞事例は、これからの PR を考える上で重要なヒントを与えてくれると思います。

橋本 良輔

株式会社電通 PR コンサルティング
統合コミュニケーション局　次長

一昨年、昨年と広報/PR およびマーケティングの定義が刷新されました。そして、ソーシャルメディアは引き続き台頭しており、業務をする上でも業務領域やメディアの境界を明確にすることが難しい時代に突入したことを実感しています。今回エントリーされた作品も目的や手法、成果も広範囲におよぶものでした。どれも広報・PR として存在感や成果を示しており、甲乙つけがたいものばかりで感動しました。その中でもグランプリのマイナビとゴールドの島田電機製作所は、実業の社会的な価値を軸にして、ステークホルダー資本主義ともいえる広範囲および中長期な視点で自ら行動し、ステークホルダーとのエンゲージメントまで実現したものとして、今後の広報・PR のあり方や可能性を示唆するものだと感じました。今後益々、価値観やコミュニケーションチャネルが多様になります。自社が何を社会やステークホルダーに提供できるのか、どんな課題を解決し得るのか、その解決に広報・PR の役割や期待は益々高まっていくと褌を締める思いを感じています。改めて、エントリーされた企業の皆さま、優れた広報 PR パーソンの皆さまに御礼申し上げます。

牧 志穂

株式会社博報堂
PR 局／局長補佐、チーフ PR ディレクター

ここ数年、「社会をより良くするために」PR の力を使い、古い商慣習の見直しや、エコ素材の普及、地域創生を進めた、といった好事例がグランプリ・ゴールドに並んでいましたが、今年は、「社会をより良く」はもう当然のこととして、「生活をより楽しくする」という気運が感じられました。残念ながら 2024 年、世界の平均気温は産業革命前から 1.6℃上昇と、パリ協定の目標 1.5℃をすでに上回ってしまい、生活環境は今後ますます厳しくなる事が予想されます。そんな

中でも悲観的になったり、ひたすらに我慢するのではなく、少しでも良い社会、楽しい生活にしていきたい！という PR パーソンのこれからの未来に向けた意思の表れではないでしょうか。自分も一人の PR パーソンとして、微力ながら尽力していきたいと思います。

横田 和明

株式会社日本パブリックリレーションズ研究所
取締役副社長

ご受賞された皆さま、誠におめでとうございます。

また、今回エントリーくださった皆さま、エントリーシート 1 枚 1 枚から挑戦とその背景にある想いを感じながら拝読しました。日々の実務でお忙しい中、応募してくださったことに心から感謝申し上げます。

昨今、PR という言葉が曖昧かつ多義的、時に恣意的に使用される状況が散見されます。
本来、ビジョンや目的を達成するために、倫理観をもとに、双方向性コミュニケーションの中で、変化に柔軟に対応をしながら、様々なステークホルダーとの関係を構築していくパブリックリレーションズ(PR)。本年度も、その何たるかを示す取り組みが数多く入選されました。

ポストコロナを感じさせるインバウンドの回復や心身のウェルネスの追求、激甚化する災害対応、過疎化や都市化といった人口動態の変化や人手不足、人材の流動化が進む中での地域や中小企業、伝統企業が直面する課題、新市場創出を目指すスタートアップ企業の挑戦、SNS の普及や多様な価値観や意見がより可視化される中でのリスク管理視点でのコミュニケーションなど、現代社会の世相の一端が見えました。
また、短期で成果を挙げた事例だけでなく、5 年以上中長期的に取り組みステークホルダーとの対話を重ねる施策も数多く見受けられました。

混迷を極める情勢の中で、課題解決をしながら、分断ではなく、社会的紐帯を高めていくようなパブリックリレーションズの実践が希望の灯火になっていくという思いが強くしました。

惜しくも今回は入賞を逃したエントリーシートについて、今後の展開や実績の積み重ねが期待できるものが多かったです。来年度以降もぜひトライいただきたいです。

～2025 新春PRフォーラムを開催～

日本PR大賞　小田 凱人氏と一般社団法人まちライブラリーを表彰

日本の分断、アメリカの分断　ソーシャルメディア時代を生き抜くリテラシーをテーマにスマートニュース メディア研究所長　山脇岳志氏が講演

2025 年 1 月 23 日（木）、協会主催の「新春ＰＲフォーラム 2025」を六本木・国際文化会館で約 100 名の参加を得て開催しました。15 時からスマートニュース メディア研究所長　山脇岳志氏（元朝日新聞論説委員、アメリカ総局長）による「日本の分断、アメリカの分断　ソーシャルメディア時代を生き抜くリテラシー」と題した特別講演を行いました（3 月号に講演レポート掲載予定）。

16 時 45 分からは 2024 年度日本ＰＲ大賞パーソン・オブ・ザ・イヤーを受賞した小田 凱人氏（プロ車いすテニス選手）とシチズン・オブ・ザ・イヤーを受賞した一般社団法人まちライブラリーの表彰式を行いました。

第一部：特別講演

特別講演では、スマートニュース メディア研究所所長の山脇岳志氏を講師にお迎えし「日本の分断、アメリカの分断：ソーシャルメディア時代を生き抜くリテラシー」をテーマにお話いただきました。ご自身のご経験や 2024 年 10 月に書籍化された「スマートニュース・メディア価値観全国調査」の結果などを基に、日本の現状や今後予測されるリスクを解説いただきました。また、虚偽情報が広がりやすい情報環境下で、私たちがマスメディアや SNS とどうつきあうべきか、企業広報に期待される役割も含めて、お話しいただきました。詳しい内容は 3 月号協会ニュースに講演レポート掲載予定です。

第二部：日本ＰＲ大賞 表彰式

＜2024 年度 日本ＰＲ大賞 「パーソン・オブ・ザ・イヤー」＞

■受賞者　小田 凱人氏（プロ車いすテニス選手）

■授賞理由

プロ車いすテニスプレイヤー。パリ・パラリンピックの金メダリスト。2023 年 6 月の全仏オープンで

は史上最年少優勝を果たし、ITF 車いすテニスランキング史上最年少 1 位（17 歳 35 日）を達成。2024 年も全豪オープン、全仏オープンの 2 つのグランドスラムタイトルを獲得し、車いすテニスならびにパラスポーツの顔となった。 また、自身がプロデュースした国際テニス連盟公認の車いすテニスの国際大会「岐阜オープン」では日本初となるジュニアのための大会も開催。年齢を問わず、障害のある人もそうでない人も、車いすテニスを当たり前に楽しむ世界を作るために尽力している。 このような競技と活動を通じて、常に積極的な発言と情報発信につとめ、車いすテニスの普及と、その先にあるダイバーシティ社会の実現に向けて大きく貢献している点が、パブリックリレーションズの観点から高く評価される。

■受賞メッセージ　動画　https://prsj.or.jp/personcitizen/2024comments/

■小田 凱人氏プロフィール　https://www.tokai-rika.co.jp/trsports/players/tokitooda.html

＜2024 年度 日本ＰＲ大賞 「シチズン・オブ・ザ・イヤー」＞

■受賞者　一般社団法人まちライブラリー（「本」を通じて「人」と出会うまちの図書館）

■授賞理由
まちライブラリーは、「本」を中心に緩やかに人と人が繋がる自然体のコミュニティで、本が単なる読み物ではなくコミュニケーションのツールとして機能し、地域のステークホルダーの結束を強める役割を果たしている。提唱者は森ビル出身の礒井純充氏で 2011 年に開設。誰でもオーナーとして始めることができるため設置者は個人が 6 割を占め、現在は MUFG PARK をはじめ全国に 1200 か所以上に広がっている。パブリックリレーションズの観点で優れた取り組みであり、高く評価される。

■受賞メッセージ　代表理事　礒井純充氏
まちライブラリーは 2011 年に私自身の個人的な居場所づくりの一環としてスタートしました。この活動が全国に広がり、多くの皆様に支持されるようになったこと、また本日も東京近郊で活動しているまちライブラリーの仲間たちが集い、この賞を授与される喜びを共有できることを大変嬉しく思います。この活動を通して、巨大化する社会構造の中で疎外感を持ち始めている個々の人々が、再び自らの力やそれを支える身近な仲間を再認識するための手段として広がってほしいというのが私の願いです。今回の受賞を励みにさらに私自身もやれることをやり、やりたい人の背中を押し続けていく所存です。この活動を支えてくださっている多くの仲間やスタッフの皆様に深く御礼を申し上げます。誠にありがとうご

ざいました。

■まちライブラリーとは
まちライブラリーは、いつでも誰でもどこでも始めることができる、「本」を通じて「人」と出会うまちの図書館。個人や団体が、自宅や店舗、病院、学校などの一角に本棚を設置して本の貸し借りなどを行う場として全国に広がり、今では図書館や公共施設、商業施設、サービス付き高齢者住宅などにも広がっている。多様な人たちがそれぞれの想いをもって展開する活動になっている。
https://machi-library.org/

また、新春ＰＲフォーラムの会場には汐留にあるアドミュージアムで実施したＰＲ企画展の再現展示を実施し、ＰＲをより身近に正しく理解していただこうという趣旨の展示でありＰＲ活動を広く知っていただく機会になりました。

フォーラム後には対面の懇親会が行われ、参加者同士が大いに語り合い、笑顔のあふれる場となりました。

― 最前線で活躍するベテラン広報担当者からノウハウを学ぶ！―

「メディアリレーションズ実践講座 2024」開催レポート

教育委員会

教育委員会は、去る 1 月 24 日に、「メディアリレーションズ実践講座 2024」を開催しました。本講座は、お二人の講師から広報の現場におけるリアルなメディアリレーションズをお伝えし、講師陣・受講者の方々を交えディスカッション形式で開催いたしました。

当日は、エバラ食品工業(株)執行役員・コーポレート本部長の上岡氏、リスト(株)広報部次長の田尻氏を講師としてお招きし、日々どのようなことに気を付けてメディアとのリレーションズ構築を図っているのか、実体験を交えお話いただきました。

講座冒頭に、田尻氏からは「社内で必要とされる広報部になることが重要。そうすることで必然と社内の情報が広報部に集まり、メディアへ有益な情報提供ができるようになる。」とのこと。さらに、「メディアとは常に対等な関係でなくてはならない。そうでないと真の信頼関係は築くことはできない。」とお話しされていました。

上岡氏からは「メディアの人と仲良くなるのは何のためか？」という難しい問いかけが。この問いの答えとして「仲良くなるため」と語った上岡氏。その答えについては「人と人との関係というのは、対等でなければならないし、下心をもった人とは仲良くならない。お互いの信頼関係をつくりあげたうえで仲良くなることができる。」とお話しされました。

お二人が考える真のメディアリレーション構築のポイントは、“メディアと対等な関係を持ち”、“メディアから頼られる存在になる”ということ。

参加者は終始真剣な面持ちで、経験豊かなお二人の実体験を聞いていました。お二人からのお話しのあとは、参加者を交えてディスカッション形式で進められました。参加者は、広報経験が浅い方々が多かったため、日頃のメディアリレーションズの悩みを一つ一つ丁寧に講師のお二人から回答いただきました。

講座終了後のアンケートでは、「わかっているつもりのことでも実際には行動できていないことが多くく、改めてメディアリレーションズの奥深さ、面白さを認識できました。」「メディアとの具体的な付き合い方、関わり方を知ることができ、参考になりました。」といった声をいただきました。来年度の開講も検討しておりますので、ご興味がある方は次回ぜひご参加ください！（教育委員会事務局　佐藤）

協会掲載記事

●　1 月 31 日（金）『月刊広報会議』（宣伝会議）3 月号
『月刊広報会議』2025 年 3 月号における当協会の連載コラムで、「ＰＲアワードグランプリ 2024」の各賞受賞について掲載されました。
コラムでは、「アルバイトの立ちっぱなし問題解決を目指す『座ってイイッス PROJECT』」がグランプリを受賞、さらに「ゴールド」1 件、「シルバー」7 件、「ブロンズ」6 件、「審査員特別賞」１件の決定が報じられました。あわせて、グランプリ、ゴールドの評価ポイント、本田審査委員長のコメントが紹介されています。

●1 月 30 日（水）　『CM 通信』（東京）1 月 30 日号
『CM 通信』（東京）1 月 30 日号で、当協会が 2024 年度の日本ＰＲ大賞「パーソン・オブ・ザ・イヤー」にプロ車いすテニス選手の小田 凱人 氏を、日本ＰＲ大賞「シチズン・オブ・ザ・イヤー」に一般社団法人まちライブラリーをそれぞれ選出・決定したことと、それぞれの受賞理由が紹介されてます。

［記事協力：株式会社内外切抜通信社］

事務局の青田です。

いきなりですが、私、青田は6月の総会をもって事務局長の職を後任に引き継ぐことになりました。これは、出向元の電通PRCとの雇用契約満了にともなう出向解除です。先日の理事会でご報告しました。

ご挨拶はあらためてさせていただきますが、3年前に出向、事務局長就任してからアッという間でしたが、みなさまからのご支援に深く感謝いたします。ありがとうございました。とはいえ、6月総会までに仕掛かりの案件が山積ですので、ぞれらを着地させる、または道筋をしっかりつくることに全力で取り組みます。それまでは引き続き、ご協力、ご指導のほどよろしくお願いします。

■今こそ問われる「メディア情報リテラシー」（新春PRフォーラム）

1月23日の新春ＰＲフォーラムでは、元朝日新聞論説委員でスマートニュース メディア研究所長の山脇岳志氏による「日本の分断、アメリカの分断　ソーシャルメディア時代を生き抜くリテラシー」と題した特別講演がありました。アメリカでの真っ二つの「分断」に対して、日本はそこまでいってないとのこと。ただし、「分断」の一因となっている、虚実が混在する情報に対してどう向き合うか、今こそメディア情報リテラシーが問われており、とりわけ広報・ＰＲに携わる人々の役割とリテラシーは極めて重要であると。

大変に背筋の伸びるご指摘をいただきました。まったくそのとおりですね。今、機能できないとしたら我々の存在意義はない、とすら思います。大変な状況になったものです。待ったなしの宿題を突き付けられた我々実務者は、そしてＰＲＳＪは何をどうしていけばよいのでしょうか？みなさんと一緒に考え、そして実行していければと思います。

■東京都の広報コンクールに参加しました（東京都「伝わる広報大賞」）

東京都の庁内コンクール「第２回“伝わる広報大賞”」の審査員をご指名により務めました。各部局が実施した広報活動の中から優れたものを表彰し、職員をエンパワーする取り組みです。

昨今では広報・ＰＲのベストプラクティスに関する情報を容易に入手できるネット環境があるうえに、東京都の場合は民間から人材がどんどん入ってくる状況にもあることから、エントリーされた広報活動、プロジェクトは昔に比べてかなり質の高いものが増えた印象を持ちました。喜ばしいことです。

ところで、行政の広報活動の特徴は「内製化」にあるといえます。外部への業務委託にできるだけ依存せず、行政がすでに所有しているリソース（人・組織、モノ・ツール、場所）を最大限に活用することを良しとする、ということです。その姿勢は審査基準にも明確に打ち出されており、非常に印象的でした。

考えてみれば、行政の本来の仕事、すなわち、それぞれの職員が担当するステークホルダーとの日々の向き合い、コミュニケーションこそがパブリックリレーションズそのものであるわけです。特定のイシュー・課題に対して、一定の予算と期間で実施するプロジェクトだけが「広報活動」なのではない。したがって行政職員のみなさんこそ、しっかりと「広報」「PR」の本来の意味を理解していなければいけない・・・ということを審査員の講評の際に私からお伝えしました。これは結構「刺さった」ようです。広報を統括する幹部の方々からお礼を言われました。笑。

なお、審査員の謝礼 10 万円は協会として頂戴し、わずかながら収益の足しにさせていただきましたのでご報告します。笑。

以上

編集担当より

本誌の内容に関するご意見・希望をお寄せください。

中身の濃い会員誌に育てていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

広報委員会

Eメール　mail@prsj.or.jp

※禁転載

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会
〒106-0032　東京都港区六本木 6-2-31　六本木ヒルズノースタワー5F
〒530-0001　大阪府大阪市北区梅田 1-12-12 東京建物梅田ビル 12F